

株式会社SDSホールディングス

2026年3月期 第一四半期 連結決算説明資料

東証スタンダード市場（証券コード：1711）

2025年8月18日

INDEX

1. 2026年3月期第一四半期のニュース
2. 2026年3月期第一四半期連結業績
3. 今期予想と進捗率
4. 過去5期分の第一四半期業績推移
5. セグメント別業績
6. セグメント別業績推移 省エネ・再エネ事業
7. セグメント別業績推移 リノベーション再販事業
8. 今期の取り組み

「継続企業の前提に関する注記」が解消され、企業活動の制約が大幅に緩和 セカンダリー太陽光市場での事業が利益寄与

4月14日 一般社団法人 ダンス教育振興連盟（IDAC）のダンススクール事業における、施工工事指定業者に

全国で約50か所を展開するJDACダンススクールの設置工事の指定業者となりました。
今後、教室数の拡大とともに、業績を伸ばしていくことが出来ます。

4月28日 当社子会社によるセカンダリー太陽光発電設備9件を取得

セカンダリー低圧太陽光発電設備を9件、取得しました。当該設備の売却によって、譲渡益を計上して参ります。
セカンダリー市場の拡大に伴い、今後も優良案件の開拓に挑戦していきます。

5月26日 一般社団法人縁GINとの提携による、キッチンカーの衛生管理事業の開始

石川県とキッチンカー提供の契約をした縁GIN様に取りまとめる多数のキッチンカーの衛生管理サービスを、サブスクでサービスします。

6月26日 当社取締役吉野氏とのコミットメントライン契約締結

「継続企業の前提に関する注記」記載解消

業績向上と吉野会長によるクレジット提供により、課題となっていた「継続企業の前提に関する注記」を解消。

6月28日 吉野取締役、代表取締役会長に就任

吉野会長が代表取締役に就任し、渡辺社長との役割分担をする体制に

2. 2026年3月期第一四半期連結業績

再エネ事業が、売上総利益率の上昇をけん引し、**営業利益は大幅増益**

(単位：千円)	2026年3月期1Q	売上比	対前年比	2025年3月期1Q	売上比	前期との比較
売上高	1,002,771	-	-3.3%	1,037,094	-	
売上総利益	180,377	18.0%	33.3%	135,290	13.0%	売上総利益が大幅改善し、増益に
販売管理費	160,478	16.0%	21.9%	131,662	12.7%	
営業利益	19,899	2.0%	448.6%	3,627	0.3%	営業利益増益
経常利益	△5,521	-	-	△10,988	-	経常赤字は縮小
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△14,687	-	-	△32,038	-	
総資産	4,816,729	-	-	3,543,492	-	
自己資本	592,246	-	-	635,198	-	
自己資本比率	12.3%	-	-	17.9%	-	自己資本比率が低下

3. 今期予想と進捗率

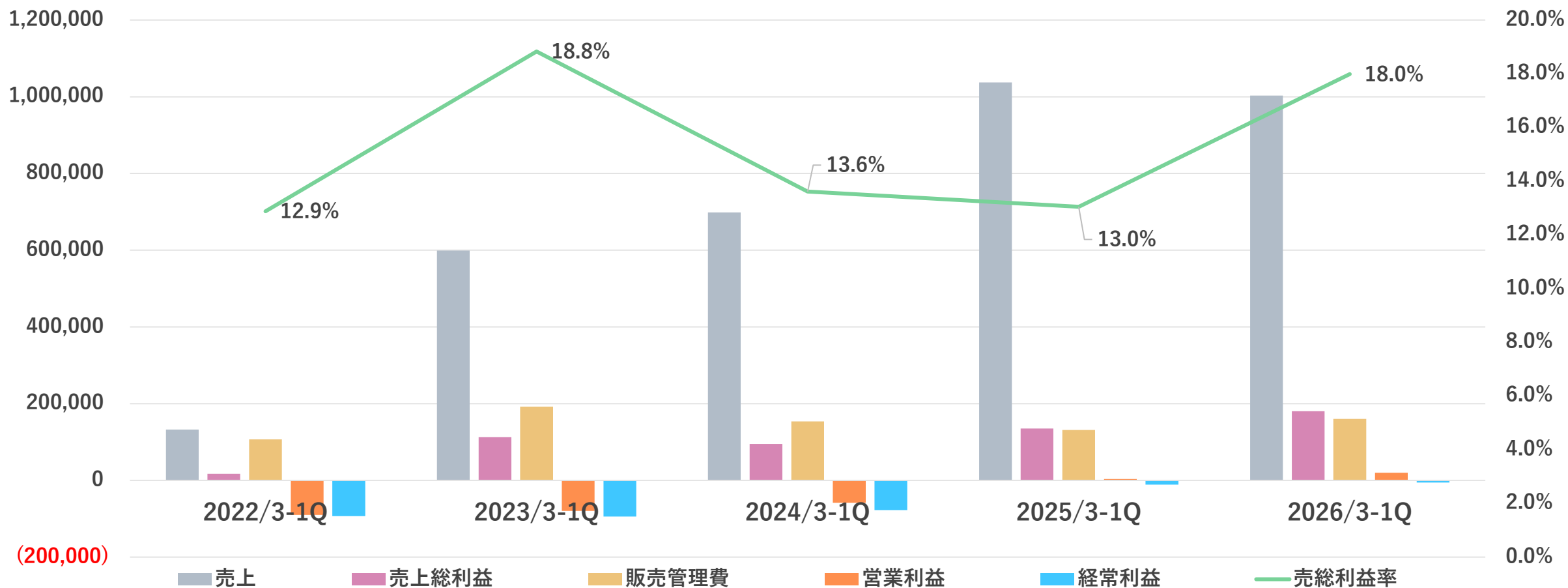
営業利益の進捗率は53.8%と好調

(単位：千円)	2026年3月期1Q	2026年3月期 通期（予）	進捗率	2025年3月期1Q	2025年3月期通期	進捗率
売上高	1,002,771	4,300,000	23.3%	1,037,094	4,035,492	25.7%
売上総利益	180,377	648,000	27.8%	135,290	529,251	25.6%
販売管理費	160,478	611,000	26.3%	131,662	543,942	24.2%
営業利益	19,899	37,000	53.8%	3,627	△14,691	-
経常利益	△5,521	△50,000	-	△10,988	△97,208	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△14,687	△90,000	-	△32,038	△151,714	-

4. 過去5期分の第一四半期業績推移

第一四半期としては **2期連続営業黒字**

第一四半期業績推移（5力年）



5. セグメント別業績

セグメント利益は**省エネ・再エネ事業**と**リノベーション再販事業**が
ほぼ同等の利益になり、バランス良い構成に

SDSホールディングス

(単位：千円)

2025年3月期1Q

売上

50,393

省エネ・再エネ事業

省電舎・ONE EXE

(単位：千円)

2025年3月期1Q

売上

159,724

セグメント利益

38,142

リノベーション再販事業

イエローキャピタルオーケストラ

(単位：千円)

2025年3月期1Q

売上

843,047

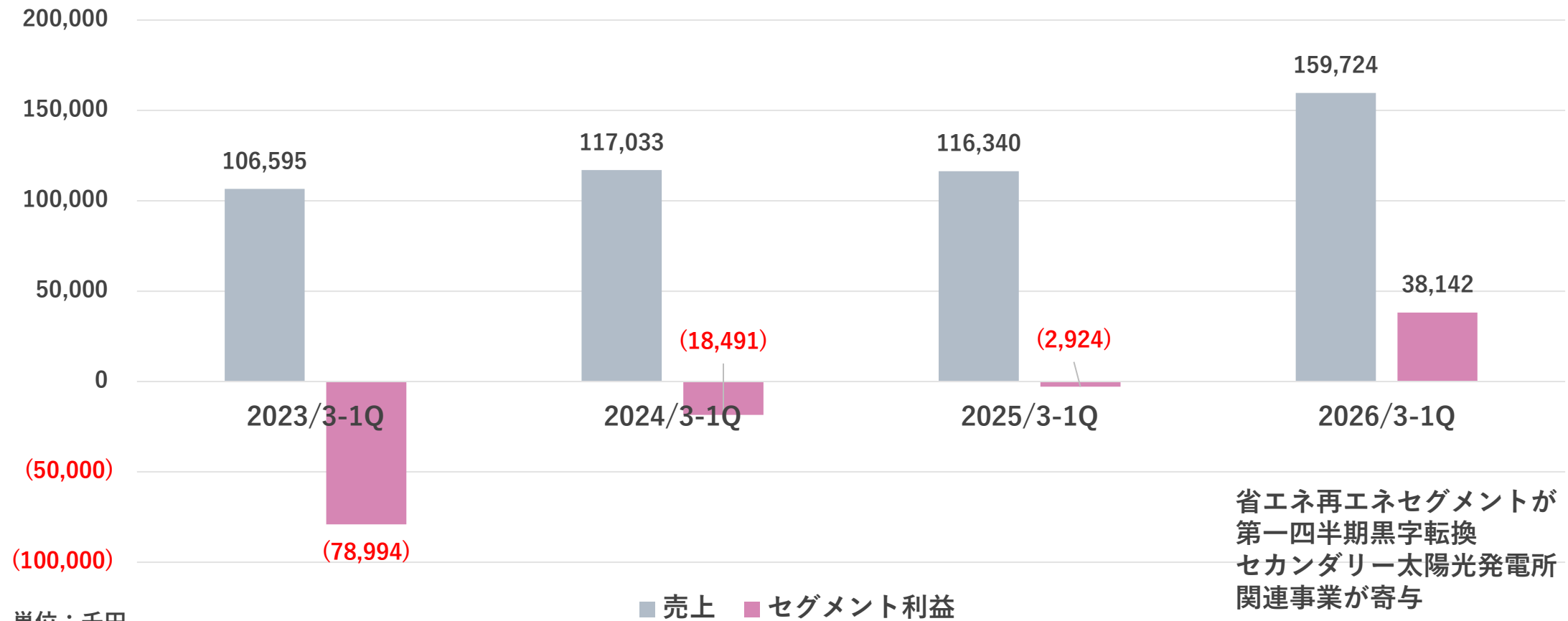
セグメント利益

37,580

6. セグメント別業績推移 省エネ・再エネ事業

省エネ・再エネ事業は、セグメント開示後、**初の黒字**へ

省エネ再エネ事業 第一四半期推移

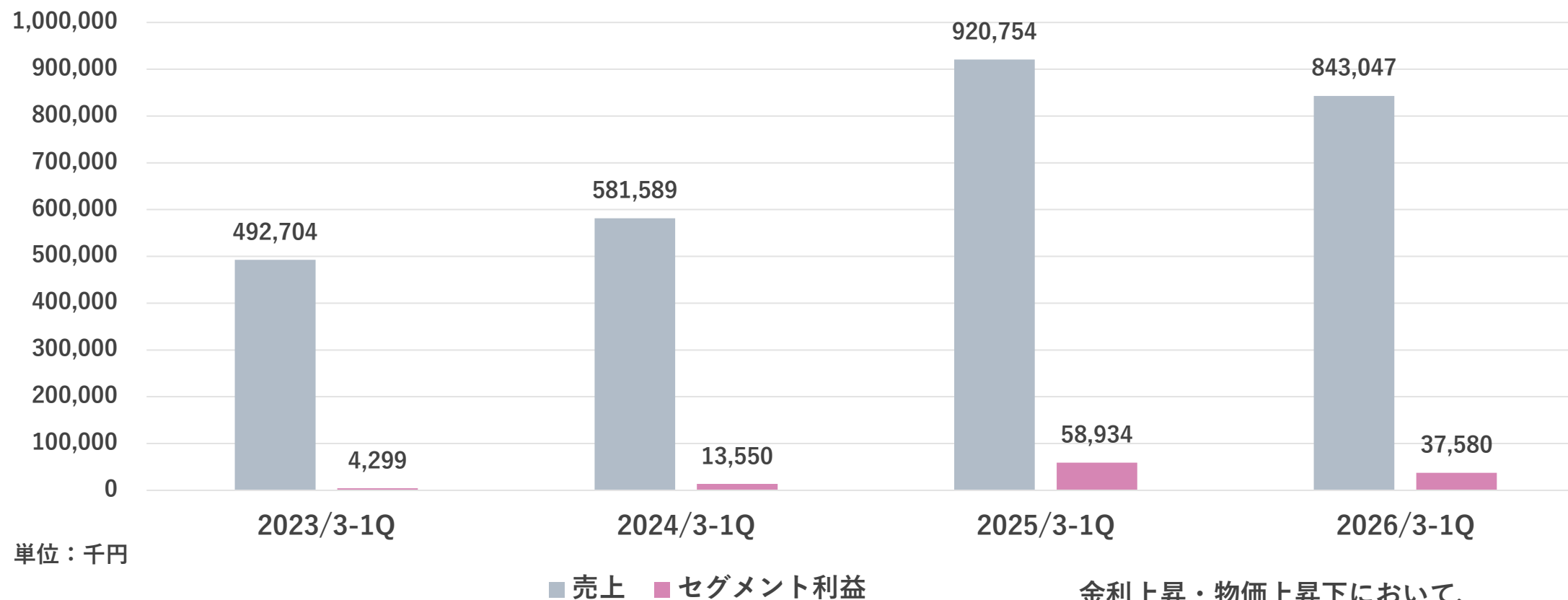


省エネ再エネセグメントが
第一四半期黒字転換
セカンダリー太陽光発電所
関連事業が寄与

7. セグメント別業績推移 リノベーション再販事業

対前期比は若干弱含んだが、**足下は非常に強さを継続**している

リノベーション事業 第一四半期推移



金利上昇・物価上昇下において、
中古物件への需要が高まる

8. 今期の取り組み

今期は、**上記の3事業**の推進で、営業利益を黒字回復が可能と考えています。

また、**事業再生関連事業**への進出により、当社自身のアセットについても再考し、**経常利益、当期利益の黒字化を目指します。**

「次の一手」として**AI開発**を進めて参ります。この活動は、M&A業界に新風を吹き込む活動として、そして、サステナブルな企業社会の構築を目指す重要なツールにして参ります。

今期の業績寄与

再エネ

低圧太陽光セカン
ダリー案件の継続

省エネ

大手クライアント
の省エネ受注完工

リノベ再販

好調なリノベー
ション物件の販売

+

事業再生・投資事業

後継者不足の中小企業
等への事業再生や投資
を検討中



来期以降の高成長事業 AI関連開発



本資料は当社に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。本資料は2025年8月18日現在の情報に基づいて作成されております。本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証または約束するものではなく、今後予告なしに変更されることがあります。